「児童生徒の自己実現を目指した教育活動」

1993. 12. 1
第93号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
讃岐幸一

編集協力
北会津・耶麻・両沼
地教委連絡協議会
小・中学校長会

これからの学校教育は、児童生徒一人一人が豊かなよさや可能性を持ち、それを発揮しながら主体的に学習を進め自己の可能性を十分に開発し発展させていく能力、即ち、自己実現の能力を育成することが求められている。

豊かな自己実現を目指すためには、これまでのような一斉画一的な授業や指示待ちの態度を育てきた指導の在り方を反省し、これからは「新しい学力観に立つ教育」や「子供のよさを生かす教育」の実践化即ち、新しい学力観に支えられた指導観、学習観、評価観の転換を図ることである。さらに、これまで以上に「個に応じた指導」について一層工夫する必要がある。個に応じた指導を進めるためには、児童生徒一人一人の能力、適性、興味、関心、ものの見方や感じ方の特性を踏まえて、身に付けた基礎的、基本的内容を生かしながら獲得したものを、集団の中で表現させることにより他人との違いを認識させ、自らの見方や考え方を深めるようにすることである。このことが自己実現に結び付くものである。

また、学習の結果よりそのプロセスを重視し、児童生徒の多様な見方や考え方を生かしながら課題を追究させ、どんな学習成果があったのか自己評価させたり、課題追究の喜びを味わわせたりして、次時の学習への意欲や課題を把握させることも自己実現につながるものである。

以上のように、教育内容、方法についての質的改善を図り、多面的で豊かな体験的活動の機会や自ら課題を持ち解決する場の設定をとおして、児童生徒一人一人の多様かつ柔軟な思考力、判断力、表現力を育成し、豊かな自己実現に生きて働く力となるような指導援助することが大切である。

「思いやり」はこだまする

会津教育事務所業務次長
齋藤　健

新聞のコラム欄に「いじめ」による死亡事故について、その事件が発生するまでの追跡調査の一部が連載されていた。わずか十四・五歳で加害者となったり、被害者となったりした少年たちについて、その成長過程が具体的に記述されていた。

そこには、心を受けとめてもらえる存在さえないのに、崩れそうな両親の間を必死でつなごうとした少年や、いつもいじめの対象としてしか友人とかかわりをもてなかった少年らの姿等がうきぼりにされていた。

そんな追跡調査の中に、少年たちが教師に対しても、さまざまなシグナルを送っていたのではないかという問題が指摘されており、自分が担任をしていた当時のことが思い出され、子どもたちの心をどれだけ受けとめることができていたか、心の痛む思いであった。

一人一人について、その背後にあるものを感じとり、内面的なものまでも見極めて指導に当たっていくことが大切であるとわかっていても、実際にはそう簡単なことではない。

愛情を持って教育に当たっていても、自分の考えている生徒という概念の枠からはみ出たり、反抗したりする子どもに対しては、時には、おもしろくなく思うこともあるはずであるし、また、それが人間としての普通の感情ではないかと思う。

しかし、それを乗り越えて子どもたちからのさまざまなシグナルを一つでも多く受けとめて、教育に当たっていくことが大切と思う。それにはどの子どもに対しても、さらに深い「思いやり」を持って接することではないだろうか。

教師の深い「思いやり」は、子どもに対する理解をさらに深めると同時に、その大切さを言葉で教えるより子どもの心に強く響き、「思いやり」の持てる人間として育っていくものと思う。

新しい学力観に立つ授業の展開 わたしの実践

児童一人一人のよさを生かす教育を創造していくためには、児童のつまずきを毎時の授業の中でどう解消していくか、さらに、能力差に応じた授業をどのように展開していくかという課題を解消しなければならないと考えた。

そこで、本校の少人数のクラスの利点を生かし、一斉指導において児童一人一人を生かすことに配慮した指導法を追究していくことにした。

すなわち、学習活動の場において、目標に対する個々のつまずきや到達状況を的確にとらえ、その結果に基づき、個に応じた学習を展開する手だてを設定し、一人一人の学習状況に応じた働きかけを行うことによって、児童一人一人に確かな学習を成立させることができるであろうと考え研究実践に取り組んだ。

研究内容

一、児童一人一人の実態把握

二、毎時間の到達目標の設定

三、授業を組織する上での工夫・改善

(一)指導過程の工夫（個々のつまずきや到達状況が的確に把握できるようにする）

(二)四十五分プラスαの授業時間の設定（集団解決の場の充実と習熟を図る時間の確保のため）

(三)段階的診断テストの活用（基礎基本の理解を図る問題・基礎基本の理解を深める問題・向上を図る問題で構成）

(四)つまずき解消システムの活用

四、予測できるつまずきに対する指導の手だてを明確にするため児童一人一人の到達状況の確認

(一)段階的診断テストの到達状況の把握

(二)事前・事後・把持テストの実施とその変容

五、児童一人一人の学習意欲の変容の把握

(一)自己評価カードの活用

(二)算数科の学習に対する意識調査の実施

今後は、形成的評価の機能をより効果的に活用していくために、さらに研究を深めて個に応じた指導の充実が図れるようにしていきたい。

小学校 算数

会津坂下町立片門小学校
教諭　石本浩一

中学校 保健体育

北塩原村立裏磐梯中学校
教諭　宇南山忠明

生涯にわたって運動の楽しさや喜びを味わわせるためには、生徒の能力や適性、興味・関心などを把握した「個に応じた指導」が必要である。

そのために、生徒一人一人が目標を持って自ら考え、判断し、試み、表現し、新しい課題に進んで取り組めるような授業の展開をめざしてきた。

一、生徒の実態をとらえて

一学級十六名から十八名と小規模校のため、積極的に男女共修の授業を行っている。しかし、集団スポーツ（球技）になると、特に女子生徒や運動能力の低い生徒の活動が消極的になり、学習意欲も低迷してしまう。そこで、個人スポーツでは味わえない集団スポーツの楽しさや特性を、協力学習で体得させるとともに、生徒の意欲を大切に生涯スポーツとして楽しめるバレーボールを選択し、グループ学習の中で育てることにした。

二、生徒一人一人に目標を持たせるために

グループ学習の中で、勝敗にこだわらず協力して運動の楽しさを味わわせるため、個人や各グループの活躍と技能の向上がわかる学習カードを作った。そして、毎時間めあてを持たせ、グループに貢献しようとする学習意欲や技能の向上を図った。

また、能力・技能の向上を図る段階において、生徒たちにゲームの特別ルールを考えさせた。（技能の低い生徒がレシーブでき、チームで三段攻撃ができたら二点ポイントを与えるなど・・・）

三、実践を通して

①グループ学習を通して、今まで以上に協力・励まし合いが生まれ楽しい雰囲気の学習活動がみられるようになった。

②運動の苦手な生徒や女子生徒も自ら学ぼうとする積極性が見られたり、グループ内に「教え合い学習」も見られるようになった。

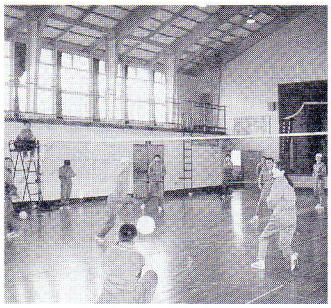
「生徒の学習カードから」

・はじめてサーブレシーブができとてもうれしかった。

・みんなで協力し声をかけあえば次は勝てるかも。

③生徒の活動場面を多くすることにより、個々の行動（表現）が見えるようになり、個性がとらえやすくなった。

今後は、個々の運動能力や技能向上の違いを踏まえた指導方法と評価の工夫が必要であると考えている。



随想

町村にこそ図書館を

会津若松市立会津図書館
主幹兼館内奉仕係長　野口信一

現在福島県内の町村立の図書館は、町立九館、村立二館の十一館ある。全国の町村立図書館の設置率は二十二パーセントで、福島県は十三パーセント。まだまだ全国平均には及ばないが、ここ数年の間、県内でもようやく町村立の図書館の誕生をみている。しかし、これも浜通りや、中通り地方だけの話であり、会津地方二十六町村には、未だ一館も図書館のない状態が続いている。

確かに公民館図書室は存在するが、室と館では大違い。そのサービスには大きな差がある。図書館には施設、資料、職員という三要素が必要である。公民館図書室では、いずれもこれらを満足させることはできない。

過去日本の図書館は、一部の限られた人の利用、あるいは余暇活用のための利用といった使い方をされてきた。しかし、図書館の持つ本質的機能は、住民の読む、見る、聞くという要求を、公的に保障する機関である。つまり人権保障の場として、欠くことのできない施設なのである。

今、さまざまな情報が我々をとりまいている。それも活字からパソコン、AV機器を初めとする多種多様なものになってきている。町村の住民として、必要とする情報は同じである。その情報基地として、会津地方に一日も早く、町村立の図書館の誕生を期待したい。

心に残った人々

山都町教育委員会教育長　真部修一

二十数年前に勤務したW中学校時代のことである。

一学期末の通知票の提出も終わり、一息ついている時であった。突然、校長室に呼ばれた。訂正用の付せんがいっぱいついた通知票を前に、S校長先生がおられた。

――通知票を読ませていただいた。書いてある内容は問題ないが、文字が乱雑だ。君の書いてある文字は「似て非なる文字」というものだ。「似て非なる文字」とは、形は似ているが正確ではない文字のことだ。「いくつか具体例をあげて指摘された。

（例　衆―衆　器―器　魚―魚）

通知票は生徒にとって、その学期の汗と努力の証だ。生徒も保護者も全神経を集中して読んでいく。クラスの人数が多いとか、多忙の中で急いで書きあげたとかで許されるものではない。「似て非なる文字」は、生徒にとっては正しい文字として覚えこんでしまう場合が多い。十分に注意するように。――

そのことがあってから、文字を書くことがおそろしい気分にかられたが、「似て非なる文字」は書くまいと努力した。その年の受験生の内申書の記入にあたっては、「似て非なる文字」は字も指摘されることなく書きあげたことも記憶に残っている。

「似て非なる文字」の指摘を通して、基礎・基本の大切さ、教えることの厳しさを諭されたのだと思う。

S校長先生の教えをいつまでも忘れずに生きたいと思う。

社教の窓から

村をあげての国体準備活動について

高郷村教育委員会社会教育主事　菊池芳次

ふくしま国体開催まであとわずか。高郷村では漕艇競技が行われます。高郷村には県営荻野漕艇場があり、これまで、昭和二十七年の国体をはじめとして、数多くの全国規模の大会を経験してきました。村としては、これまでの経験から競技の運営には自信を持っています。

今回の団体には選手・監督、役員等約一，五〇〇人が来村します。これらの関係者の宿泊には、近隣市町村の宿泊施設の協力と、輸送計画が必要になってきます。また、心に残る式典、接待、歓迎のための装飾、万全な大会運営など、小さな村にとって大きな課題がたくさんあります。当村では、村づくりの視点から国体開催を考えています。国体終了後の村のあるべき姿を考えながら、国体開催を契機に、全国的に高郷村の名前を広め、村民が誇りを持てるよう、村の活性化を図りたいと考えています。そのためには、村民すべてに協力を求め、村をあげての開催に努めたいと考えています。道路や諸施設の整備を進めるとともに、村職員はもちろんのこと、小中学生・保育所園児には式典参加、老人クラブ・文化協会には環境美化や記念品づくり、婦人会には接待・受付等、商工会や農協には特産品の開発や大会運営への協力、体育協会・体育指導委員には式典運営や大会運営への協力、更には一般家庭への民宿の依頼など、村内のあらゆる機関、団体に協力をお願いする考えでいます。

村内の国体への関心は高く、先日の生涯学習研究集会においては、国体協力を通しての学習の推進について研究協議がなされ、それぞれの団体の代表から国体に対する意見、実践していること、協力できることなどの発表がありました。また、村の国体事務局に「早く具体的な協力内容を示して欲しい。」などの建設的な意見も出されました。

村民の協力のもとに国体が成功することを確信し、今後の準備に全力を尽くさなければならないと考えています。

わたしの抱負

会津坂下町立第一中学校
教諭　菅野公弘

「おはようございます。今日からこのクラスを受け持つことになった菅野公弘です。」

これが生まれて初めて教師となり、自分の学級に向けて発した第一声である。この言葉から、はや八ケ月が過ぎ、やっと学級の生徒一人一人が分かりかけてきたこの頃である。

今までの中で、特に忘れられないことは、ルールもよく分からないまま担当した女子バスケットボール部が、「方部新人戦第二位」という好成績を挙げたものの、試合のあと、部員みんなが泣いていたことである。きっと、もっと練習しておけば、という思いだったのだろう。十分指導できなかったことに悔いが残る。

これから長い教師生活を送っていくうえでの私の抱負は、生徒と共に、何事にも全力で精一杯アタックしていくことである。

会津高田町立旭小学校
教頭　佐瀬千代子

「学校に何かあった場合には校長が責任を負うから、安心して十分自分の力を発揮してください。」

新任教頭として、責任の重さを感じ、緊張して旭小学校に着任しましたが、校長先生のこの一言に感動を覚え、必死でがんばろうと意を決した次第です。

全職員が、新しい学力観に基づく算数科の授業の創造をめざし、真剣に討議する事前研究会、子供たちのよさを伸ばそうと努力している陸上競技、バレーボール、合唱などの練習と、やる気に満ちています。

着任以来八ケ月、このような先生方の意欲的な活動にささえられての教頭職であるとしみじみ思っています。

校長先生の意を体しながら先生方お一人お一人を大切にし、お互いが持ち味を十分発揮できるよう微力ながら教頭として努力していく所存です。

会津若松市立共和小学校
校長　福田睦之

学校の経営方針の中に家庭や地域との連携を掲げ、特に重視している。これからの教育は家庭や地域との理解や信頼、協力が基盤であると考えるからである。

私は、家庭や地域から理解と信頼を得るための手だてとして、学校や子どもの情報提供を特に大切にしている。

定例の授業参観や懇談会、行事への参加、諸々の通信、ＰＴＡや関係団体の会合などあらゆる機会をとらえ情報提供に心がけている。それによって学校に対する理解を深め、信頼と協力が得られることになると思っている。

幸いにして数回あるＰＴＡ奉仕作業や参加行事に対しては、毎回百パーセント近くの出席率である。歴代の校長先生方がこのことを大事にしてこられた結果がよき伝統となっていると思い、感謝してやまない。

受賞おめでとうございます

平成５年度　教育関係における主な受賞者・団体一覧（敬称略）

	表彰区分	氏名	備考
文部大臣表彰	○地方教育行政功労者	佐藤聰 飯塚健	(前)会津坂下町教育委員会教育長 (前)喜多方市教育委員会委員長
	○地域文化功労賞	桜木甚吾	
	○学校保健功労賞	鈴木浩一	(前)会津若松市立第四中学校歯科医
	○保健体育関係功績顕著な団体・施設	会津若松市大戸小学校	
	○優良PTA	会津坂下町立坂下小学校慈育会	
福島県教育委員会表彰	○地方教育行政功労者	武藤啓	(前)北塩原村教育委員会教育長
	○学校教育功労者	五十嵐義 寺島康信	会津若松市立第二中学校長 会津若松市立第三中学校長
	○保健体育功労者	廣木謙 矢吹正孝	会津体育協会理事長 猪苗代町立猪苗代小学校医
	○芸術・文化財保護功労者	安倍孫一	福島県日本画協会副会長
	○社会教育関係功績顕著な団体・施設	会津高田町立高田小学校父母と教師の会	
	○中学校・高等学校生徒の科学研究論文野口英世賞の最優秀賞	久保田真裕	会津若松市立第一中学校３年 県知事賞も受賞
福島県教育委員会教育長表彰	○健康推進学校優秀校　（中規模校） （小規模校）	河東町立河東第三小学校 会津高田町立永井野小学校	中央表彰も受賞 中央表彰も受賞
	○保健体育関係功績顕著な団体・施設	新鶴村学校給食共同調理場	
	○第47回県合唱コンクール最優秀校	喜多方市立第一中学校	審査員特別賞も受賞
その他	○才能開発実践教育賞	会津若松市立城西小学校	財団 才能開発教育研究財団より